

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401135		
法人名	有限会社 ふれあい松川		
事業所名	なごみの園・菊水		
所在地	熊本県玉名郡和水町長小田334番地		
自己評価作成日	令和2年8月19日	評価結果市町村受理日	令和2年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokennsaku.jp/43/inndex.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和2年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の穏やかな空間に立地する平屋建て、施設敷地内に菜園を作っており、新鮮野菜を収穫し、その日の食材として食事に提供している。近所の方が畑を耕してくれたり肥料を頂いたり栽培方法を教えていただきながら、入居者様との交流も行っている。施設周辺は田んぼや自然が多く、四季折々の花や田畑の風景が変わるので散歩の季節を感じる事が出来ます。園内の桜 藤等が咲く時には花見を「いちにち1日の尊さを大切に」していただけばとの思いで行っている。併設するデイサービス 有料老人ホームの方々との交流も行っており、地域からのボランティア活動を共に楽しんで頂いている。本人様 ご家族様に安心して頂ける様に支援するとともに、本人の自由意思に基づき 日課にとらわれない生活支援に努め 楽しく 穏やかに過ごして頂けるような支援が出来るように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接する小学校が統廃合により閉校に至ったことで、長年続いてきた交流が閉ざされてしまい、入居者には残念な新年度のスタートであった。しかしながら地域住民との関わりは変わらず継続されており、代表者をはじめ職員の支えとなっている。敷地内に有料施設やデイサービスを併設しており、6・7月の大雨で大変な中にもデイサービスを普段通りにオープンにし、地域高齢者の不安や負担に寄り添い、出来る事で地域に応えたいとする法人の姿勢が感じられる。103歳を筆頭に女性中心のホームは賑やかで、リビングから漏れる声は、臥床中心になられた方の部屋にも届き、職員が頻回に見守りに訪れながら1チームを作っている。盆・正月を節目として大切に過ごして来られた入居者に、散髪の手配や衣類(下着など)を新調するなどこれまでの暮らしを継続し、共に生きることを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきその人のペースやレベル意思に合わせ地域の方との交流を行い、穏やかな雰囲気作り心がけ、職員が理念を共有できるように朝礼時に理念の唱和を行い実践している。	開設時につくられた理念には、入居者個々の尊重と、ホームでの暮らしを通じて地域とつながり、一日一日の尊さを大切にすることを謳っている。長年在職する職員には、理念に込められた意義が入居者との日々の関わりに反映されており、新たに入職する職員について、管理者はホームのこれまでを説明する中で、その時その時を楽しんでもらうような支援を心掛けるよう導いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に花が咲く畑等があり四季折々に花を見る事が出来、野菜を頂いたりして食材として活用している又菜園を耕して頂いたり栽培方法を教えていただいたりして、日頃より交流を行っている。 ”	隣接していた地元小学校が統廃合により空き地となっており、4月以降の交流が途絶えた事や、フェンス越しに運動場で遊ぶ児童の声が聞かれなくなったことは、双方にとって残念な事である。ただ、地域との交流は続いており、近隣住民との散歩中の談笑や、季節の花や野菜のやり取り、有志によるホーム畑の耕し作業など、住民から心にかけてもらうことに職員は感謝をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	役場 社協等より情報をその都度ニーズに応じて認知症 介護全般 施設情報等を発信し地域のニーズ 不安軽減 役場への橋渡しを行っている。施設見学も随時受け入れしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1/2か月開催 家族 老人会 民生委員 区長 役場 社協 他事業所の方参加して頂き、活動状況報告 今後の活動計画を報告して、その都度ご意見 ご要望を頂いている。それを職員間で話し合っている。身体拘束防止に向けての取り組みについて話をしている。	コロナ禍以前の推進会議は、2ヶ月ごとの定期開催が実現しており、行政や社協、老人会や民生委員など地域の代表者とともに同業者や家族、法人関係者も同席している。毎回、参加者からの生の声を聞く機会として、利用料の改定や、地域施設の稼働状況、小・中学校の児童生徒に向けた認知症啓発活動の現状などの情報を共有している。	会議では入居者の現状や活動報告、身体拘束適正化委員会を設置してホームの透明性を発信しており、今後、事故やヒヤリハットについても説明することで更なる信頼や、意見の拡充にもつながるものと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂いている、その時に制度改正 介護保険情報地域の行事 施設からの相談事項等意見交換を行っている。この度は、コロナウイルス感染予防対策等の相談をさせて頂いている又コロナウイルス感染予防対策として運営推進会議開催を中止の為、会議議題の報告をさせて頂いている。	行政からの毎回の運営推進会議への参加により、ホームの現状を発信しながら同席する地域代表者らと、行政区全体の福祉の同行や地域情報を共有して、運営に反映させている。管理者は会議の案内状を直接、担当者に手渡ししており、相談事にも気軽に応じてもらう等良好な関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会及び職員研修にて身体拘束についての認識を高め 身体拘束防止に取り組んでいる。	毎月の定例会は研修を兼ねており、身体拘束について更に職員の認識を深め、事例検討の機会としている。運営推進会議で日頃の状況を報告した上で課題があれば、参加者の意見を吸い上げる事とし、適正化に向けた努力を継続している。人感センサーや車いす利用者が増える中、プラン内で家族に向け、十分な説明が行われている。	車椅子などの物品については、定期的な安全点検や衛生管理にも努められることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待への理解を深め、全職員虐待防止へ努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行うなどして理解を深め、入居者様の必要性の有無も考えながら行っている、入居者様担当弁護士の方に相談するなどしてアドバイスを頂いたりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分時間を要し、納得して頂くまで説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会 運営推進会議の際に現状報告し、意見 要望をお聞きしそれを職員間で話し合い、今後の介護に反映出来るようにしている。	“家族会”はないが、法人全体でホームを支えており、同敷地内に展開する併設施設との交流も行われている。恒例の家族交流会は温泉施設にて開催されており、家族との貴重な時間となっている。コロナ禍の中でも窓越しの面会や、電話やたよりでの近況報告など、入居者が家族とつながりながら生活できる環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は月に一度の定例会により意見を聞く場を設けている。代表者は施設を巡回し意見を聞いている。又代表者と管理者等は月2回の会議を通して意見交換を行っている。	毎月の定例会や法人の各事業所の代表で構成する月2回の会議にて、情報を共有し、防災対策の強化などについて活発な意見があがっている。職員は夜勤専従者との連携を図り、入居者の現状把握に努め、普段から気づいたことを自由に発言できる環境作りを心掛けている。代表者は定期的にホームを訪れ、入居者・職員の一人ひとりを把握して、働きやすい職場作りに尽力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月2回の代表者と責任者の会議にて勤務状況を報告しており、年に1回は職員個人の実績を考慮して功労者を表彰している。必要に応じて面談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は定期的に行っている、必要性に応じてその都度個々に指導してスキル向上になるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉名郡市のグループホーム連絡協議会に参加して研修会 交流の機会を作ってる。又他のグループホームの運営推進会議に参加し、そこで交流 情報交換 意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾け、表情 行動を観察し、心に秘めている気持ちを出出来るように心掛る共に、家族に本人の思いを聞き取りし真のニーズに答えられるようにしている。関係機関よりの情報収集にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩み、戸惑い不安をしっかりと聞いて受け止め、要望に応えられるサービスが提供できるように支援しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聞くことに心がけ、本人 家族が何を、必要としているか、何を望んでおられるかを捉え園でのサービス 福祉用具 インフーオマルサービス等を活用し、本人 家族が求められるサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であり、郷土料理風習等 今までの経験などを教えていただき、それを共に生活に役立てている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回本人様の状況報告を郵送にて行っている又面会時には直接状況を報告している。家族の面会を大切にして、誕生日会などに一緒に参加して頂き、共にお祝いをしている。面会時に写真を撮り思い出作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のボランティアの方々の訪問や親戚の馴染みの方々の面会があっている。入所されてできた場所には定期的に散歩など行っている。	家族の来所時には入居者との関わりを支援し、現在は双方が安心されるよう窓越しの面会に切り替え対応している。長年続いた小学校の持久走大会の応援や、もぐらたたきなどの最期の行事に参加し、児童との交流を楽しまれている。入居者のこだわりである衣類や雑誌、飲食の選択など個別対応にも力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たため お盆拭きをしたりして、支え助け合い、又体操 レクリエーション 散歩 ソファーでの語り等楽しく過ごせる時間を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状等にて関係性を保ちながら、来熊された時には、園に訪問されることもあり近況をお聞きすることもあり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の言葉の中から、本人の思いや要望を把握し、出来るだけ本人の希望に添えるように努力している。	入居者の中にはこれまでの生活の延長として馴染みの服装や食について、はっきりと言葉にされる方もおられる。表現困難な方には日々の表情や寄り添いの中から、聞かれた一言などをプランにつなぐよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人 家族 他事業所等より 生活歴 性格 環境 職歴等を聞き取り情報収集に努め、理解した上で、その方の現状に適した最良の支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に日々の出来事や変化を記録し、全スタッフが情報共有し把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族より意見を聞いて、職員間では1回/月の定例会で意見交換を行ったり、主治医 訪問看護に相談したりして、チームで支える介護計画に繋げている。必要時には、担当者会議を開いているが回数は少ない。	毎月の定例会にケアカンファレンスの時間を設け、職員意見を反映させながら支援にあたっている。入居間もない方の精神の安定を図り、担当者会議から家族の意向や願いをくみ取りながら、プランに反映させている。本人の出来る事から排泄用品の軽量化を図り、受診時の家族の協力などによりホーム生活の体制を整える等現状に必要な内容をあげている。	プランについては事前の話し合い及び説明が十分行われており、今後も本人・家族、職員の意見が反映されたプラン作成が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個々の状況を記録し、それを読むことで皆が把握でき、情報共有して介護計画に繋げるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療 往診 訪問看護 一時帰宅 外泊時に送迎サービス 自費による福祉用具のレンタルサービス の活用等 介護指導 必要なニーズに応じたサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で、社会福祉協議会・民生委員 区長 老人会 などと意見交換を行い、様々な情報を提供して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医を選び定期的な訪問診療 定期受診 特変時の対応連携 支援を行っている。	かかりつけ医については、本人・家族の希望を尊重し、定期的な訪問診療や定期受診、急変時の対応などに努めている。また、かかりつけ医とは日頃から連携を図り、信頼関係を構築し、適切な医療を受けられるようにしている。家族による医療や介護に関する相談には適宜応じ、安心につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護に来ていただいている、健康相談 医療相談 主治医との連携急変時対応をして頂いている。園看護師と、常に健康管理 服薬管理等情報交換を行い 訪問看護師と密な連携をとり支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人が安心して治療に専念して頂け、又家族が不安にならないように職員が面会したり家族の不安軽減に努めたりしている。早期退院が出来るように先生 看護師 相談員等情報交換を密にとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて説明を行い、家族の意向を聞き、事前指定書に記入してもらっている。	入居時に重度化・終末期に関するホームの方針を書面をもとに説明を行い、その時点や必要に応じて事前指定書を受けている。今年、2名の方の最終を、本人・家族の意向をその都度聞きながら、医師の協力や職員のチームワークにより支援が行われている。代表者をはじめ職員は、今後もホームを信頼して入居者された本人・家族に出来得る最良の支援に引き続き努めていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より急変時の対応について話しているが、全ての職員が緊急時の対応は身についていない、急変時には、デイ有料より応援体制が取れるように体制づくりはしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回／年消防避難訓練を実施している。消防署より避難訓練 消火訓練等を行い指導して頂いている。災害時には、近隣の応援を頂ける様にお願いしている。	火災に関しては毎月のチェック表による安全管理を実施している。また、法人による発電機などのサポートをはじめ、今後の自然災害についても法人内で話し合いが進められている。直近では災害避難時などにも活用できるよう、エアベッドが購入されており、使い心地など入居者や職員の意見を聞きながら、台数を増やす予定である。	今後も火災に加え、熊本地震や先般の風水害を風化させることなく、備蓄のリスト作成など必要な対策を進めていかれる事が期待される。また、コロナ感染症の終息もまだ見えぬ現状であり、地域と連携した総合訓練など出来ない間は、机上など可能な訓練の実施が期待される。家族の安心にもつながると思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報情報は目的に応じて、本人 家族に了承を得て使用している。入居者の方に対しては一人ひとりを尊重する言葉を使うと共に対応にも本人の意思を尊重している。	職員は入居者の反応や安心される呼称について、家族と相談しながら決定しており、苗字を基本としているが、同姓の場合は下の名でも対応している。衣類や食べ物、飲料などのこだわりや、盆・正月前の散髪は本人も大切にされてきた、習慣であり訪問カットを活用しながら支援している。職員は方言を使いながら、入居者の不安や心配事に応える姿は、他の入居者にも安心感を与えていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や願いが聞き出せるような雰囲気づくり話しかけを行い 答えが出やすいように努めている。表情 全身の反応も見逃さないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状況に合わせて、希望を尊重し日々を過ごせるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服の選択や鏡の前にヘアブラシを置いたりして身だしなみを整えたり出来るようにしている。また一人の入居者様には眉をかいたりして身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる時には食べたいものを聞いたり。菜園で収穫した野菜を見て匂いを感じて頂いたり、下ごしらえを手伝って頂いたり、お盆拭きをして頂いたりしている。	開所時から献立作成をはじめ、職員による調理により季節感や好みを取り入れた食事支援が継続されている。食材は菜園や地域商店からの配達など、鮮度にこだわり、キザミやトロミ、介助など個々に応じて支援している。職員も同じものを食べることで、味や量、思いを共有しているが、現在は感染症対策として、職員は別室にて交代で食事を摂っている。	菜園の活用や郷土料理(のっぺさんなど)の提供など、職員の手作り料理は入居者の楽しみになっている。変わらぬ食事支援の継続に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定を行い体重管理を行っているその人により切り方 摂取量等を考慮し提供している。又水分摂取については、定期的に補水を行い嗜好によりお茶 アクエリアス ゼリー等での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいを行っている、ブラッシング等については出来る方には、本人が行い必要に応じて介助を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、失敗にならないように時間を見て誘導を行っている。トイレでの排泄に努めている。	日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間のみポータブルトイレなど状況に応じて支援している。排泄用品についても、リハビリパンツやオムツなど、個々に応じて適切なものを検討しており、100歳を過ぎられても、上げ下げのサポートのみの支援で過ごされる方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便をチェックをし、できるだけ自然排便を促すよう 食物繊維の多い食品等の提供したり、水分補給 トイレでの排泄を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に出来るだけ添えるようにしているが、午後 夜間の入浴は行っていない。体調不良の方などは、清拭 足浴 手浴にて対応している。	基本的に週2回、午前を中心に入浴支援を行っている。中には拒否をされる方もおられるが、無理強いせず、着替えをはじめ清潔保持に努める事で不快なく過ごせるようにしている。入浴はマンツーマンの時間であり、歌いながら湯船に浸かる方もおられるようである。入浴後、会話を楽しみながらドライヤーの支援を受ける光景など、日常の一コマが見られた。	柚子風呂など季節湯を支援する際は、ポスターなどで事前告知することで、入居者同士や来訪者との会話のなど楽しみにつながると思われる。職員のアイデアを活かした新たな変わり湯とともに、今後の取組が期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により、ソファーにて休息したり居室にて昼寝をしたりしている。冬場寒がりの方には湯たんぽを入れたりし良眠できる環境をつくり努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は園看護師が行っている、薬の目的作用については介護職員も理解するように努めている。又主治医 訪問看護師との連携をとり状態変化に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣・趣味を活かし、季節の行事等今までの生活経験を活かし、共に昔を懐かしみながら、楽しみを見いだして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い日には園周辺へ散歩に出かけ近所の方と会話をしたり、又車で花等で季節を感じられる様に出かけている。家族の方との外出が出来るように支援している。	入居者の身体的状況や感染症への対応から、車を使った外出を控えており、敷地内の散歩を中心に外気に触れる機会を持っている。コロナ禍以前には、花見や足湯などのドライブ外出が行われていた。代表者も機会あるごとにホームを訪れ、散歩や日光浴の支援の必要性や、特に高齢者の桜の開花への想いを伝えており、開設時から出来得る支援を継続している。	外出が困難な状況であるが、ビデオや本などを活用して、旅行や外出気分を楽しめるような職員の一工夫に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金をお預かりし出納帳を作り職員が管理している、散髪 日用品の買い物等に使用していただき、面会時に出納帳の確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルス感染防止の為面会の自粛を行い家族と会うことが出来なかった為、電話で話す機会を設け声が聴ける様に支援をおこなった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関 リビングには、家族 職員から頂いた季節の花を飾ったり 行事的掲示物を飾ったり、お風呂は、ゆず風呂に入っていたりしている。	自然に恵まれた環境であるが、外出を控えなければいけない現状であり、努めて家族や職員が持ち寄った草花や風景写真の掲示により季節感のある空間が提供されている。また、入居者も「誰が持ってきたとね！きれいかね～！」など、会話にもつながっているようである。ホーム内は臭気もなく、経年にあっても全職員で日頃の環境整備への取組が窺える。	居室に置かれた排泄用品については、プライバシーの点からも、ケースへの収納やクロスを掛ける等の工夫が望まれる。取組に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いてゆっくりとくつろげるようにしている。本人の自由意思により過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人馴染みの物を置いたり、写真を貼ったりして家族のぬくもりが感じられるようにしている、又他の方に気兼ねなく過ごせたり、本人が居心地よく過ごせるように努めている。	感染症への対応から、家族による居室の確認や一緒に過ごしてもらう事は困難な状況である。そのため、職員が不足の品や居室の現状を伝えながら本人にとって安心できる環境作りに努めている。臭気対策も含め日々の換気や掃除を徹底し、新たな入居者を迎える際は、床や壁をはじめ細かな手入れを行い、気持ちよいスタートとなるよう心を配っている。	居室で過ごす時間が長くなされた方も、入口の戸を少し開け、声や音を耳にしながら共に過ごす時間を感じてもらっている。今後も、一人ひとりに応じた居室の環境作りに努めていかれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事 わかる事を職員が把握して見守ることを大事にしている。居室・浴室・トイレ等表示して解りやすく安全に利用できるように努めて、自立した生活が出来るように工夫している。		